「読書のバリアフリーコーナー」をつくる
―マルチメディアDAISYを知っていただく取り組み

愛知芸術文化センター愛知県図書館
落合佳代

愛知県図書館の障害者サービス

愛知県図書館は、1991年４月に開館した県立図書館です。前身の愛知県文化会館愛知図書館からリニューアルする際､「誰もが利用できる図書館」を理念に掲げて視覚障害者資料室が発足しました。以来、対面朗読、録音図書作成、郵送貸出といったサービスを行っています。

視覚障害者資料室には約470名、また心身の障害により来館が困難な方へ図書や音楽資料をお送りする郵送貸出サービスには、約70名の方が登録をされています。

2010年の著作権法改正により、視覚障害者以外にも録音図書の利用が認められ、当館でもサービス対象を拡大しましたが、利用は伸び悩んでいます。録音図書やマルチメディアDAISY図書といった資料の存在や、図書館に行けばサービスが受けられることがまだまだ認知されていないことを痛感します。

周知の手段として、2018年３月に、活字を読むことが困難な方のための資料を配架した「読書のバリアフリーコーナー」を開設しました。

読書のバリアフリーコーナー

児童図書室のやや奥まった一隅からの出発でしたが、もっと目立つ場所のほうがいいのではという声があがり、現在は、児童図書室を入ってすぐの場所に専用棚を設置しています。開設の直接の原動力となったのが、マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」です。

マルチメディアDAISY図書の受入と「読書のバリアフリーコーナー」設置計画

マルチメディアDAISY図書について

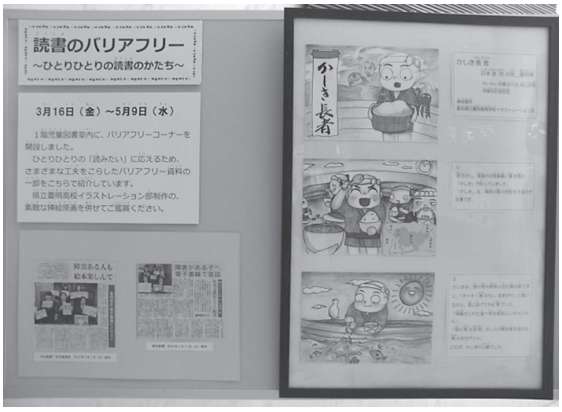
は、2015年度から受入を開始し、公益財団法人伊藤忠記念財団から寄贈いただいた「わいわい文庫」は、2017年度に装備が完了しました。障害の有無に関わらず利用できるVer.BLUE版は、一般の利用に供して広く存在を周知し、そこから必要とする人へ情報を届けることが目的と伺い、これはまさに公共図書館が担うべき役割と感じました。こうした資料が利用者の目にふれる場として、専用コーナーの設置計画が動き出しました。

配架資料は、一般利用可能なマルチメディアDAISY図書、児童向けの大活字本（一般向け大活字本コーナーは他フロアに設置済）、点字絵本、手話絵本、ＬＬブック（やさしく読める本）です。ＬＬブックは、本来児童書の範疇に入るものではありませんが、一般向け図書ではむずかしいからと、児童図書室を利用される方が一定数いらっしゃることから、併せて配架することにしました。

設置に合わせた展示・イベント

設置時期を2017年度末に定め準備を進めていたところ、伊藤忠記念財団の矢部剛部長が、2018年度Ver.BLUE版に収録予定の「日本昔話の旅（愛知県）かしき長者」を一足早く届けてくださいました。挿絵を担当した愛知県立豊明高等学校イラストレーション部の皆さんに感謝状を贈呈される際にお立ち寄りくださったとのことでした。ちょうど良いタイミングで素敵な資料をいただけたことに喜んでいると、コーナー開設記念に原画展をしませんかとのご提案をいただき、学校から絵をお借りできることになりました。

そして、2018年３月、「読書のバリアフリーコーナー」開設とともに、玄関フロアで「かしき長者」の原画15枚とコーナー資料を紹介する展示「読書のバリアフリー―ひとりひとりの読書のかたち」を行いました。



読書のバリアフリーコーナー

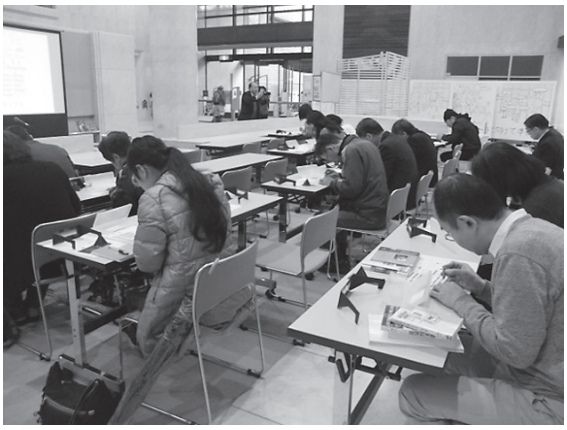
バリアフリーコーナー資料の展示

鮮やかな色使いとデフォルメされた主人公のかわいらしさが目を引く力強い原画に、足を止めて見入る利用者の

姿が多く見られました。

さらに、有限会社読書工房代表・成松一郎氏と矢部剛部長に講師をお願いして、「体験してみよう　読みにくいってどんなこと？」も開催しました。

ロービジョンを疑似体験するメガネを使い、迷路やパズルを解いたり、マルチメディアDAISY図書をiPadで実際に視聴するなどの体験を盛り込み、見えにくいとはどういうことか、そして障害のある人の読書をサポートする資料とはどういうものかについて、楽しみながら学んでいただけるイベントでした。



講演会
「体験してみよう　読みにくいってどんなこと?」

今後のとりくみ

ささやかなコーナーではありますが、点字絵本などは目につく場所に移動して利用が増え、マルチメディアDAISY図書も月に数点ずつ借りられています。また、当館で作成、配布している小冊子「読書のバリアフリー」は着実に利用者の手にわたっており、コーナーの存在によって少しずつでも継続的に一般の方への周知が進んでいると感じています。

愛知県障害者差別解消推進条例および障害者差別解消法の施行に伴い、県内公共図書館でもサービスの見直しや拡充を検討する館が増えています。

これからサービスを進めていきたいということで見学や相談に来館された担当者に「読書のバリアフリーコーナー」を見ていただくと、これならできそうという思いをもっていただけるようです。わいわい文庫Ver.BLUE版に目を留めた方には、この『わいわい文庫活用術』やウェブサイトをご紹介して、貴重な情報を得られたと喜ばれることがたびたびありました。

気軽に通える地元の図書館でのサービスは、資料貸出の面でも、また情報を届けるうえでも重要です。県内公共図書館の状況把握、必要とする館への情報提供も県立図書館の役割として、自館サービスの拡充とともに取り組んでいきたいと考えています。